

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	現代日本の政治・経済と法 I	
科目基礎情報						
科目番号	0074		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	指定しない					
担当教員	児玉 圭司					
到達目標						
1. 現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。 2. 現代日本の諸課題について, 多様な情報を収集し, 理解・分析できる。 3. 自己の主張を, 説得力に富む形で他者に説明するとともに, 報告・議論を行える。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	1. について理解できている。		1. について概ね理解できている。		1. について理解できていない。	
評価項目2	2. について実践できている。		2. について概ね実践できている。		2. について実践できていない。	
評価項目3	3. について実践できている。		3. について概ね実践できている。		3. について実践できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
(E) (F) (I)						
教育方法等						
概要	1. これまでに身につけた政治学・経済学や法学の知識を生かして, 現代日本の諸問題を理解する。 2. 討論や報告を通じて, 自身の理解を説明する能力を培う。 【Course Objectives】 This course is designed to help students: 1. to understand various issues in modern Japan through the knowledge of politics, economy and law already acquired. 2. to cultivate their abilities to explain their understandings through debates and presentations.					
授業の進め方・方法	1. 賛否の分かれる時事問題について, グループに分かれて調査を行ったのち, 報告してもらう。 2. 履修者自身が討論やプレゼンテーションを聞き, 評価する。 【学習方法】 1. 他学生の報告では発言や表現技術をよく見て, 自身のスキルアップに役立ててもらいたい。 2. 時事問題や地域社会を素材とするため, 普段から興味を持って情報を集めるとともに, 自身の考えを深めてもらいたい。					
注意点	1. 評価基準は以下の通り。 ・講義時間内に行う小テスト (20%)。 ・レポート等の提出物・班報告への貢献 (40%)。 ・班ごとに行う報告の評価 (40%)。 2. 上記の到達目標に基づき, 各項目の理解についての到達度を評価基準とする。 【担当教員】 教員名 児玉 圭司 研究室 A棟3階 (A-302) 内線電話 8908 e-mail: kodama@maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること) 【学生へのメッセージ】 ※履修者の人数によっては講義形式を変更する可能性があります。					
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明—講義の目的と進め方		本講義の目的を理解する。	
		2週	〔講義〕日本の法律・司法制度の概要・復習		「法学Ⅰ, Ⅱ」の内容を復習し, 理解する。	
		3週	ケーススタディ		「法学Ⅰ, Ⅱ」で学んだ内容を, 具体的な事例に応用できる。	
		4週	〔講義〕日本の司法制度をめぐる諸問題		日本の司法制度の諸問題について, 理解する。	
		5週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		6週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		7週	プレゼンテーション		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		8週	前期中間試験		第2~7週に学んだ内容を理解する。	
	2ndQ	9週	レポート返却とコメント/意見交換		自身の調査した内容を他者に報告し, それについて意見を交わすことができる。	
		10週	〔講義〕金融教育について		「経済学」の内容を復習し, 理解する。	
		11週	投資先を考えてみよう		「経済学」で学んだ内容を生かし, 投資先とその理由を検討する。	
		12週	〔講義〕日本経済の抱える諸問題		日本経済が抱える諸問題について, 理解する。	
		13週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		14週	グループワーク (調査)		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		15週	プレゼンテーション		グループでの円滑なコミュニケーションを図る。	
		16週	前期期末試験返却, 到達度確認		第10~15週に学んだ内容を理解する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	現代社会の政治的・経済的諸課題, および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	20	40	0	100
基礎的能力	0	20	0	10	20	0	50
専門的能力	0	20	0	10	20	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0